

Thinkerbell Labs

 インド (南アジア)

自学自習デバイス「アニー」を通じた点字学習の支援と視覚障がい者の包摂



世界の視覚障がい者の数は増え続けており、2050年までには現在の3倍になると予想されている。同社は、これまでテクノロジーの恩恵を十分に受けてこなかった点字教育の分野を革新すべく、子供たちや若者が点字を自学自習できるようにするためのデバイス「アニー」を開発した。



背景にある社会課題

- インドには世界の視覚障がい者の20%以上が住んでいるが、点字識字率は1%にも満たない。
- 旧態依然とした学習方法、訓練を受けた教師の不足などがその原因である。

ビジネスモデルと製品の特徴

- 同社は点字学習デバイス「アニー」を開発した。「アニー」では基本的な点字および初等教育の学校教育内容のいくつかを独学で学ぶことができる。
- 集合教育の中でも「アニー」を活用した教室運営ができるよう、「アニー・スマート・クラス」というカリキュラムを標準化している。

SDGビジネスへのアプローチ

- 点字教育の分野は長らくテクノロジーの進歩から取り残されていた。同社は現代の技術を活用したデバイス「アニー」を開発することで、学習者中心の点字学習を可能にした。「アニー」はオンライン接続を通じた新しい学習コンテンツのダウンロードや、学習の進捗状況の記録とモニタリングなどにも対応しており、親が子供の学習プロセスを把握することも可能にしている。
- 「アニー」は自学自習が可能なデバイスではあるが、同社はその普及に向けては既存の学校等とのパートナーシップが重要であると判断し、「アニー」を活用した授業の方法を標準化した上で、盲学校やインクルーシブ・スクールに提供している。

SDGsへのインパクト

- これまでにインド、英国、アラブ首長国連邦において、40を超える盲学校やインクルーシブ・スクールで「アニー・スマート・クラス」が導入され、視覚障がいを持つ子供たちの学習に役立てられている。

成功のポイント

- ① 旧態依然とした学習方法が支配的だった分野で、現代のテクノロジーであればもっと学習者中心の学び方があるはずだと考え、実際にデバイスを開発することで学習プロセスを変革した。
- ② デバイスを単に販売するだけではなく、その普及のためには既存の教育者とのパートナーシップが重要であるという認識のもと、教室運営方法を開発・提供している。

